

第7回双葉町放射線量等検証委員会 議事要旨

日 時：令和3年4月23日（金） 13：30～15：15

場 所：双葉町産業交流センター 中会議室

1 開会（略）

2 委嘱状交付（略）

3 確認事項

（1）委員長及び副委員長の選任について

- 委員長には田中俊一委員、副委員長には河津賢澄委員を選任。

4 議事

（1）双葉町における除染前後の線量等について

- 資料2に基づき、環境省から説明。

（主な意見）

- 精査されたデータはいつ頃出てくるのか。そのデータでは、 $3.8\mu\text{Sv/h}$ 以上の線量は基本的にはないという認識でよいか。
→事後モニタリング事業は今年度発注している。線量が高い場所については、別途確認作業していく。また、避難指示解除要件でもある年間 20mSv 以下を目指して除染していく。
- 森林が若干高いが、除染の効果は非常に出ていると思う。
- 避難指示解除後に、森林活用で作業する人には線量計の貸出等を行うのか。
→引き続き、Dシャトルの貸出は実施していく。
- 1m の線量はたぶん周りから流れ込んでくるガンマ線由来が多いと思う。道路を挟んだ森林が両方高いので、その場所の除染と広がりを持った除染をしないといけない。しっかりと解析して、効率よく除染してもらう必要がいい。
- 森林の除染方法は、リターや表土から 5cm を剥ぎ取るのか。
→基本的には、堆積物除去であり、土の剥ぎ取りは行っていない。
- フォローアップ除染や事後モニタリングは、優先順位をつけて行っていくのか。
→事後モニタリングは、現時点で方針は決まっていないが、優先的に測定が必要な場所が出てくれば測定はしていく。フォローアップ除染は、事後モニタリングの結果を待たずに、高いところから実施していく。
- 帰還する住民の立場からすると、道路の割れ目などのホットスポットが残ってしまう

のはやむ得ないと思うが、1 mの高さで $3.8 \mu\text{Sv/h}$ を超えている箇所は、無くすべきであると思う。森林の線量が下がらなければ、場合によっては範囲を広げて実施する必要がある。

- 100mメッシュで高い場所が残っている箇所については、努力する必要がある。
- JAEA で測定しているデータ等もあると議論がしやすい。
- 道路の除染は、高圧ジェットで実施すると下がるのが分かっている。道路のキワと土との境界は、削りにくいと思うので、覆土等の方法も必要になってくるのではないか。
- 道路の除染は、相当経験があり、一般的にはかなり下がる。しかし、1 mの高さで線量が高いのは、たぶん周辺の影響だと思う。
- 健康面から言うと、 $1 \mu\text{Sv}$ も 1mSv もほぼ意味がないと思う。しかし、法律等の基準値以下というのが、住民には飲み込みやすいと思う。
- $3.8 \mu\text{Sv/h}$ 以下にすることと個人線量計での被ばく線量の把握の2本立てが大事なことでと思う。
- リスクコミュニケーションは、小さい頃に行っていくことが大切である。
- 食材等の簡易測定機器類は準備しておく必要がある。
- 測定器等を活用しながら、子どものリスクコミュニケーションを図ることはいいことであると思う。

(2) 今後の取組等について

- 資料3に基づき、事務局から説明。

(主な意見)

- Dシャトルの測定方法はもう少し工夫する必要があると思う。
- 大事なことは双葉町でどの程度被ばくするのかということである。その時間帯を抽出できればよいと思う。
- 準備宿泊の参加者にDシャトルを貸出し、抜き出したデータを説明することが大事であり、体制を整える必要がある。
- 準備宿泊開始の2日前くらいからDシャトルの貸出しをすると、データの比較もできるので、なおいいと思う。
- 準備宿泊をする人の敷地や宅内等の線量を一緒に測定するなどの希望にできるだけ沿った対応することがいいと思う。

- D シャトル等の測定結果は、もっとオープンにしたほうがよいと思う。
- 食品モニタリングは、ゲルマ測定器ではなく、2インチのNaI で十分だと思う。

5 その他

6 閉会（略）